

## 令和4年度 第1回沼津市幼保小連携協議会 報告

### 1 日 時

令和4年6月8日（水）14:30～16:15

### 2 場 所

沼津第五地区センター

### 3 出席者

飛田 直和（金岡小学校 校長） 内村 美恵子（香貫小学校 教諭）  
蓮池 千春（金岡小学校 教諭） 関沢 美乃里（第四小学校 教諭）  
相原 恵（大平幼稚園 主任教諭） 釜原 茜（愛鷹幼稚園 主任教諭）  
眞野 裕輝（原町幼稚園 教諭） 金崎 万里子（大岡保育所 副所長）  
田中 美佐枝（永明保育園主任保育士） 宮ヶ丁 恵美（しんあい保育園 主任保育士）  
杉浦 敬子（幼保連携型認定こども園杉浦学園 副園長）  
後藤 信俊（幼保連携型認定こども園こずわ幼稚園 園長）  
教育企画課、学校教育課（事務局）  
※欠席 子育て支援課（事務局）

### 4 協議内容

沼津市の幼保小連携の現状及び今後の取組について

（事務局より）

これまでの幼保小連携の取組や各園、各校における現在の連携状況を踏まえ、ウィズコロナを見据えてどのように連携を推進していくとよいか。

（主な意見）

#### 幼保小連携の取組の現状について

- （幼保） コロナ禍前は、年に2回の子供の交流を実施していた。年長が近隣の小学校へ行って1年生とゲーム等をしたりおみやげをもらったりし、次に1年生が幼稚園へ来て学校の紹介をするといった交流を行っていたが、現在は感染防止のため実施できていない。
- （幼保） 年度末に新1年生の引継ぎをしているが、入学後、子供たちの様子を伝えていただけると園の先生たちも安心する。
- （幼保） 今年度6月に、園の年長担当が小学校の授業参観に行った。授業後に懇談会を設け、入学後の子供たちの様子や入学前に園で取り組んでほしいこと等を話し合った。
- （幼保） 小学校を意識させるため、園バスの利用者には小学校を通ると眺めるように声かけした。
- （幼保） 1年生が生活科で作ったおもちゃ（こま・けん玉）を、教師が届けてくれた。学校の様子が分かるビデオも届いたので、園児が見て喜んでしたが、このような取組に保護者も安心しているようだった。職員も卒園児の小学生になっての成長が見られ嬉しかった。
- （幼保） 近隣の小学校の子供が、学校のことを模造紙にまとめ、届けてくれた。
- （幼保） 園児にとっては、実際に小学校を訪問して交流することで、学校の広さに驚いたり、授業の様子を見てイメージを湧かせたりできた。
- （幼保） 小学校と絵手紙の交流をした。コロナ禍とはいえ、こうした交流で小学校生活を楽しみにできた。
- （幼保） 職員の交流研修は行っているが、小学校高学年の先生や、中学校の先生とも「子どもの姿をみる」ということでもっと交流し、「観」を共有したい。
- （小） 本来は11月に1年生と年長とで交流会を実施しているが、コロナ禍の影響を受け3年間実施できていない。
- （小） 子供同士の交流ができないため、年長に学校へ来てもらい、教員が学校案内をした。
- （小） 近隣の園の年長が散歩で学校へ来て、園の先生が連れて学校内を見学した。
- （小） 入学してくる子供の在籍園と年度末に引継ぎをしているが、コロナ禍で短い時間での引継ぎとなったり、電話のみでの引継ぎとなったりした。

- (小) 行事の精選やコロナ禍ということもあり、以前行っていた職員交流(授業参観後、懇談会)は実施できず、今後も未定である。
- (小) コロナ禍前は、5年生と年長児の交流として、就学時健康診断と一緒に校内をまわっていた。総合的な学習の時間で幼稚園へ行って交流したり、学校に来ていただいて校内を案内したりしていた。
- (小) 複数の園から子供が進学してくるため、交流の場の設定に苦慮している。

#### 幼保小連携の今後の取組について

- (幼保) 連携の必要性は感じているが、どちらも多忙であるため、お互いに声を掛けてよいのか躊躇してしまっているのではないかと。どちらからか声を掛ければ、参観や懇談など日程調整して可能になるかもしれない。
- (幼保) 園に小学校の先生が参観に来ていただけるのであれば、実習のような形で子供たちと一緒に活動することが望ましい。(子供たちの普段の姿が分かりやすい)
- (幼保) 小学校のスタートラインを明確にしてもらえれば、幼保もそこに向かって子供たちに指導ができると思う。(特に文字や数等、小学校の学習につながる)
- (幼保) 各園や学校の活動を知る機会がなかなかないので、実践例をまとめて周知してもらえるとありがたい。(活動のヒントになる)
- (幼保) 幼保小連携のHPを作成するなどして、連携の取組を発信してはどうか。他校区の取組も知ることができ、参考になるのではないかと。
- (幼保) 若手教員の2年目研修は、幼稚園の取組を知ってもらう良い機会となっている。中堅の先生等にも園に来ていただいて、幼児教育を知ってもらう機会を設けてはどうか。
- (幼保) 放課後の研修会(リモートでも良い)を開く。早い時期(4・5月)に行うことで、接続もスムーズにできるのではないかと。
- (幼保) 手引きをもとに、年長としてどんな姿が必要かわかるのはありがたいが、このねらいや内容についてどう伝えていくのが課題である。幼保小が手引きをもとに「共通の目的」をもつ場が必要ではないかと。
- (幼保) 本園では食育に力を入れているが、そういった園で力を入れて取り組んでいることを、小学校につなぐだけでも有効ではないかと。
- (小) 保護者の授業参観の際に、近隣の園にも案内を出して参観してもらい、気付いたことなどを後日伝えていただくような方法であれば、大きな負担なくできるのではないかと。
- (小) 幼保で共通のワークのようなものを使用し、小学校とも共有することで、同じ土台で子供たちの学びについて話し合いができるのではないかと。
- (小) 入学時までにはできるようになってほしい具体的なことを、幼保小の先生同士で話し合う研修や場があればいいのではないかと。

#### その他(現在の自校、自園の保育・教育活動の状況や子供の様子等について)

- (幼保) 園内での子供の交流を制限せざるを得ないため、異年齢の関わりは減っている。
- (幼保) マスクをつけていることで、園児の発音に影響が多少見られる。
- (幼保) 園児達は教師の口元を見ることができないため、教師の言おうとしていることを理解しているか気になる。
- (幼保) 室内遊びが増えたので、絵が上手な子が増えたように思う。その反面、外遊びが減り、外遊びが苦手な子が増えたように感じる。遠足や少しの遊びでも「疲れた」とすぐに口にする子が増え、体力低下の表れが見られる。
- (小) 大きい声を出してはいけないと言われてきたので、音読に影響が出ているように思う。
- (小) 就学前からマスク生活をしてきたため、今では1年生もしっかりマスクが着用できるが、コロナの感染が怖く、マスクを外せない子がいる。